

天候不順により、大豆のべと病の多発が懸念されます！

令和2年産の大豆は、は種前からの天候不順により、作付けが思うように進んでいない状況にあります。は種された大豆においては、その後の多雨・低日照で、べと病が多発するおそれがあります。特に「里のほほえみ」は、べと病が発生しやすいため注意が必要です。

ほ場ごとに開花期などの生育状況をよく確認し、開花10日前～子実肥大期の間に薬剤防除（表1）を行い、子実への感染を防ぎましょう。

1 ベと病の特徴

- (1) 本病の病原は糸状菌で、比較的冷涼で雨が多いときに発生する。病徴は主に葉で見られ、子実も侵される。病原菌は子実や被害茎葉で越冬し、次年度の伝染源となる。
- (2) 葉が侵されると、初め淡黄白・円形の小斑点を生じ、しだいに融合して不整形の褐色病斑になり早期落葉する。
- (3) 子実が侵されると、表皮が乳白色から黄褐色のカサブタ状になり、粒の大きさが健全粒に比べ小さくなる。



葉表の病斑



葉裏の菌そう



子実の斑紋

2 防除対策

開花10日前～子実肥大期に薬剤防除する。

- (1) 開花前に本病が発生した場合は、茎葉に薬剤を散布する。
- (2) 開花後の早い時期に薬剤を散布する。
- (3) なお、発生が拡大する場合は、開花40日後までに追加防除する。

表1 大豆のべと病に登録のある主な防除薬剤（令和2(2020)年7月14日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用方法(散布液量)	使用時期	使用回数	有効成分	FRACコード
ランマンフロアブル	1000～2000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで	3回以内	シアゾファミド	21
アミスター20フロアブル	2000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	アゾキシストロピン	11
ベトファイター顆粒水和剤	2000～3000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	シモキサニルロ	27
					ベンチアバリカルブイソプロピル	40
フェスティバルC水和剤	600倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	40
					銅	M01
プロボーズ顆粒水和剤	1000倍	散布(100～300L/10a)	収穫21日前まで	2回以内	ベンチアバリカルブイソプロピル	40
					TPN	M05
リドミルゴールドMZ	500倍	散布(100～300L/10a)	収穫45日前まで	3回以内	マンゼブ	M03
					メタラキシルM	4

※Qoi殺菌剤(アミスター20フロアブル)は、耐性菌が発生しやすいので隔年使用とし、同一年における使用回数は1回とする。

※FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農業危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農業を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！